

社協だより 萩

Vol. 54

2014
2/1



**第3位は肺炎
3大死因50年ぶりに変化**

痛いところは治療され、清潔に保たれた口腔であること。おしゃべりや健口体操などで口を動かし、飲み込む力などの食べる機能が正常であること。そして食べ物が適切な形態で、皆と一緒に食べるなどの食環境が整うことで、おいしく食べられます。さらに、自己ケアとかかりつけ歯科医院で定期的にケアを受けることが、誤嚥性肺炎の予防になります。

全身の健康の入口、口腔を健康に保つことが必要です。



私たちができていること

昨年7月28日の豪雨災害により、多くの被害を受けた田万川・須佐地域。全国各地からのボランティアさんや地元の企業、商店、学生、主婦、民生児童委員など多くの方々が駆けつけられました。地元の小学生たちも、それぞれに自分たちのできることを見つけ、地域が少しでも早く元氣を取り戻すために様々な取り組みをしてきました。

「26人でのボランティア」

萩市立育英小学校

6年 矢野明日風さん

小学校最後の夏休み。私は少しでも元の須佐を取り戻すため、2つのボランティアに取り組みました。1つめは、公民館のボランティアです。私は姉と友だちをさそって掃除をしました。日にちが過ぎると、だんだん疲れたけれど、公民館はきれいになっていきました。

2つめは、災害ボランティアセンターの活動です。飲み物やおしほりを配るなど、ボランティアの皆さんにおもてなしをする活動をしました。私がこの2つのボランティアを続けることができたのは、公民館の方やボランティアの方の笑顔が見られたからだと思います。

2学期が始まって、私たちは

「IKE26」として、いろいろな活動に取り組みました。自分たちでできるボランティアについて何度も話し合い、縁パックの準備と配布、わかば団地の表札づくりや訪問、ご縁まつりでのプラ板コーナーの出店、ABUウォーターボーイズでの公演など、生活応援センターの方に協力していただきながら活動しました。

大変なこともあったけれど、26人でボランティアをしているいろいろな人に出会えたり、挑戦したりすることができました。また育英小学校のみんなやたくさんの方々を支えてもらっていると感じました。

これからもいろいろなことに挑戦し、たくさんの方々には私たちの活動を見てもらいたいと思います。



「かけがえのない体験」

保護者 中原愉季子さん

心弾ませて迎えた夏休みに起こった豪雨災害は、須佐・田万川地域にとつて心に深く刻み込まれる出来事となりました。災害発生当初から、全身泥だらけになって土砂を運搬している子どもの姿を多く見かけました。

行事の一部を変更せざるを得ない状況の中で迎えた2学期、子どもたちはかけがえのない体験をしました。縁パックを作って地域の方々に配布し、仮設住宅の表札づくりや訪問も行いました。また、他地域の小学生や地元の方々とふれあい、皆で協力して五縁まつりへ参加したこと。

さまざまな体験

をする中で、言葉で聞くボランティアではなく、実際に身をもってボランティアを体験し、人は互いに助け合い、声を掛け合つて一歩ずつ歩んでいることや、笑顔で接することで自然と相手も元気づけられるのだ

と知ったことでしょう。そして、人と人とのつながりには、相手を思いやる気持ちが大切だと学んだことでしょう。この災害での経験が、子どもたちの成長の糧になることを願っています。

「体験を学びにかえる」

萩市立育英小学校

6年担任 山本豊三さん

毎年恒例の花火大会、まさにその日に水害が起こりました。被災後、子どもたちは、家の片づけや家族の職場の片づけ、公民館でのボランティア、災害ボランティアセンターでの活動など、それぞれの立場で汗を流していました。

そのような子どもたちの貴重な体験を紡ぎあわせ、学びとして生かすことが必要であると考え、育英小学校6年生は、育英小ボランティア隊（IKE26）を結成し、総合的な学習の時間に「私たちにできること」「ボランティア」として、様々な活動に取り組みました。

子どもたちは、生活応援センターや地域の皆さんと一緒に活動をする中で、自分たちで納得するまで話し合った活動プランが実現する喜びや、地域の皆さんを笑顔にする喜びを感じることができました。

また、萩市内の小学校の子どもたち

ちや以前同じように水害にあった熊本県の小学校の子どもたち、萩地域のPTAの方、阿武町のABUウォーターボーイズの皆さんなど、自分たちを応援してくれるたくさんの方の存在を知ることができました。

さらに、地域の方とふれあう中で、ふるさとを愛する人たちがたくさんいることに気づくことができました。

このように話し合い、取り組み、振り返りながら、地域のために取り組んだ活動は、自分たちの縁を強くし、自分たちがどのように生きるかを考えるきっかけとなりました。水害という過酷な体験を自分たちの学びとして生かし、大きく成長した子どもたちを誇りに思います。



さ
と
笑
顔

地域の福祉 あれこれ

12/7

法的支援について学ぶ

12月7日、福栄コミュニティセンターで、第16回健康・福祉まつりが開催されました。

「高齢者の権利擁護の取り組み」と題して、リフォーム詐欺や振り込め詐欺、相続や遺言などについて、山口正之弁護士から事例を交えた講演がありました。

どこに相談したらよいのかと質問されるなど、参加された方々も身近な問題として熱心に聴かれていました。



福栄

1/8

春の七草わかる人！

「はい。せり、なずな、ごぎょう…」と、指を折りながら七草を数える小学生。始業式の日、佐々並地区に20年前から伝わる「七草がゆの会」が開かれました。七草がゆは、今年も一年元気に過ごせますようにと、四つ葉の会のお母さんたちが一生懸命作りました。

「おめでとうございます」と、一礼して部屋に入ってくる子どもたち。お母さんたちは、「みんな親戚みたいだね」と、子ども一人ひとりの顔を見ながら声をかけていました。



佐々並

12/9

唐津焼体験で思い出作り

育英小学校26名と弥富小学校3名の6年生が、卒業記念の陶芸作りをしました。

地元の伝統工芸に触れ、心に残る思い出を作った。心に残る思い出を作った。心に残る思い出を作った。

は、初めての体験でしたが、マグカップやお皿など自分の好きなものを作り、なかなかの出来栄えとのことでした。



須佐

1/18

ふれあい世代間交流会

保健推進員さんが中心になって企画された今回のふれあい世代間交流会には、地域の親子とサロンに参加されている高齢者の皆さんが参加されました。

福笑いなどの正月遊びをしたり、調理道具のお玉で箱の中のお菓子をとったりしました。日頃、孫やひ孫と接する機会の少ない高齢者にとっても、楽しい交流のひとつとなったようです。

今後も多世代が楽しく交流できるように、3月に未就学児の子どもたちの運動会、4月にはさくらまつりを予定しています。



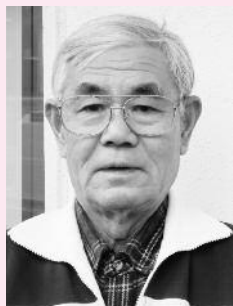
川上

地域の縁側、ご近所に笑顔。

有志の自宅などを会場に、ご近所で日頃から顔なじみの関係を育む「ご近所サロン」を行っています。

親、兄弟のようなもの

山本 憲二さん
(萩・新川東の1 / 72歳)



平成12年から町内会長を引き受け、皆さんのご協力をいただきながら町内会活動をしています。何かあったときに助け合えるように、「町内のみんなが親、兄弟のようなもの」と思って日頃から親睦を深めるようにしています。2年前に社会福祉部、去年は自主防災組織と作りましたが、これも同じ想いです。行事をすることだけが目的ではなく、婦人部の方々にも協力をいただいて食事を囲んでの楽しい語らいを大切にしています。

以前から、老人クラブの定例会にあまり参加されない方や家に閉じこもりがちの方のことも気になっており、少人数のご近所サロンを始めました。

町内の人数も減少していますが、さまざまな活動を通じて日頃から交流と親睦を深め、温かい町内会づくりを続けていきたいと思っています。

ご近所に笑顔

石川 京子さん
(田万川・本町 / 80歳)



近所の人と出会ったり、立ち話をするのが少なくなり、一人で過ごす時間が多くなりました。福祉員として配り物を届けている時もそんなことを感じ、寂しそうにされている方を見かけることがあります。しかし、一緒に話をしたら笑顔で会話が弾みます。

去年の福祉員研修会で「ご近所サロン」のことを聞き、私のところでも必要だなと思っていました。9月から月1回程度、私の自宅で3人で始めてみました。集まる日時は2人と話し合って決めます。最初は3人で始めましたが、今は他の方も来られ、時には「悪質な訪問販売、電話勧誘」があったことなどを情報交換しています。

地域の縁側として、ご近所サロンに笑顔が絶えないよう元気に活動を続けていきたいと思っています。



社会福祉協議会 シンボルマーク

全国にある社会福祉協議会共通のシンボルマークです。社会福祉及び社会福祉協議会の「社」の文字を図案化し、「手をとりあって、明るいしあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

昭和47年、全国社会福祉協議会20周年を記念して、公募によりデザインが選ばれ選定されました。



やまぐち障害者等 専用駐車場

車の乗り降りのためにドアを全開にしなければならない方、歩行困難などでできるだけ建物に近い位置に駐車する必要がある方の駐車スペースです。

利用証を提示することで、公共施設や店舗などにある身障者駐車場で山口県に登録された「やまぐち障害者等専用駐車場」を利用することができます。



オストメイト標識

人工肛門・人工膀胱（ストーマ）を造設している人（オストメイト）のための設備があることを表し、オストメイト対応のトイレの入口・案内誘導プレートに表示されています。排泄物の処理、ストーマ装具の交換・装着、ストーマ周辺皮膚の清拭・洗浄、衣服・使用済み装具の洗浄・廃棄などができるように配慮されています。



身体障害者標識

肢体不自由であることを理由に、免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークです。マークの表示は努力義務となっています。

危険防止のため、やむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。

善意銀行 ありがとうございます

香典返し・玉串料返し・花料返し

氏名	住所	備考	金額
萩			
齊藤 幸生	大屋の1	母／藤子	金一封
岡村ハナ子	浜崎1区の1	夫／政春	金一封
池部 繁	江向3区の2	父／叔邦	金一封
飯尾 浩	上野の1	父／邦夫	金一封
廣中 良光	上野の1	母／鷹代	10,000円
上村 功	山口市大内矢田	母／フジコ	金一封
藤崎 義次	玉江浦1区の3	祖母／タケ子	金一封
阿座上節子	川島2区の2	夫／保	金一封
上田 直和	玉江2区の2	父／貞男	金一封
藤本まゆみ	山田1区	父／木村 務	金一封
大津 久幸	雑式町	妻／豊子	金一封
藤山 光雄	熊谷町の1	母／秀子	100,000円
小谷 慎一	三見河内	祖父／勉	金一封
阿武 満夫	三見吉広	父／倭二	金一封
刀禰田 悟	大島浜	弟／行夫	金一封
井町 敏一	大島赤穂瀬先	父／猛	金一封
倉重 愛子	椎原の2	夫／輝男	金一封
金子 清美	三見浦2	父／堅太郎	金一封
景由 孝子	三見石丸	義母／アヤ子	金一封
綿屋 佳孝	堀内1区の2	父／佳男	金一封
見嶋三枝子	川島1区の1	母／澄江	金一封
田原多美代	香川津の2	母／田口ミサコ	金一封
森下 輝美	玉江浦1区の2	夫／直治	金一封
杉山喜代志	小原	父／昭治	金一封
三好ふみ江	川島3区の1	夫／武利	金一封
林 祥彦	中ノ倉の1	妻／文子	金一封
金子 伸彦	雑式町	母／清子	100,000円
高森 房子	江向1区の1	母／河村イチ子	金一封
種子ミツヨ	江向3区の2	夫／忠義	金一封
弘 恵子	雑式町	夫／幹兼	金一封
濱野 秀生	周南市新清光台	父／吉堯	金一封
今井 蔦子	下五間町の2	夫／清純	金一封
明満寺	三見駅通	前坊守／山本貞子	金一封
朝田 哲男	中津江の1	長男／大裕	金一封
松浦 隆博	大井浦中	叔父／政彦	金一封
植田 昌子	鶴江2区の1	母／光子	金一封
大田須美江	金谷の1	夫／信壽	金一封
藤田 正利	青海	母／マサコ	金一封

寄付者の承認を得たもののみを掲載しています。
※平成25年11月1日～12月31日受付分（敬称略）

氏名	住所	備考	金額
野村 克幸	後小畑の2	伯母／小野村文枝	金一封
川邊 伊輔	三見石丸	妻／ハル子	金一封
西山 和夫	北木間	父／勇治	金一封
恵美 猛	平安古西区の2	母／キミヨ	金一封
厚東 啓子	上野の1	夫／昌祐	金一封
大嶋 進	御許町の3	妻／静代	金一封
山中三津子	椿町の2	夫／康利	50,000円

田 万 川

松野 恒子	弁天	母／スエ子	金一封
村上 昇	上本郷	母／重子	金一封
中津 了	土居	妻／君枝	金一封
増野日出夫	上本町	叔母／智津代	金一封
藤井 信雄	上本町	母／キクヨ	金一封
伊藤 昇	益田市	母／カネ子	金一封
高田 佳輝	わらび台	父／計正	金一封
大田 勉	下郷	母／茂子	金一封

む つ み

大井 和之	志和田	父／繁昌	金一封
竹重 時宏	大光寺	長男／裕章	金一封
熊野二美枝	湯ノ口	母／喜美枝	金一封
藏増 聡	野田	父／利一	金一封
中村 達義	金谷	祖母／マツヨ	金一封
清水 幸人	宇立	父／稔	金一封
平野 専治	千石台5区	父／春雄	金一封

須 佐

波田 伸一	松原	父／治夫	金一封
谷岡 進	弥富10区	母／澄子	金一封
津守 広志	野頭	父／伊佐男	金一封
松本 幸雄	上三原	母／トシ子	金一封
安岡 博文	弥富11区	母／信子	金一封
山本 慶司	北谷	父／司郎	金一封

旭

眞田慎太郎	大下	祖母／フミコ	金一封
和木 薫	矢代	母／雪子	金一封
藤井 敏英	牛地	伯父／元助	金一封
山本 勝茂	上横瀬	母／サダ子	金一封

福 栄

森田 敦代	吉田	夫／幸夫	金一封
藤原 悟	鶴ヶ谷	父／清治	金一封

白上 瑠慧	壇今木	母／ウメ	金一封
佐々木 清	榎屋	母／雪代	金一封
小野 善和	永井	父／一昭	金一封

白神 良一	鎌浦	母／アサコ	金一封
藤原 俊祐	平蔵台	妻／三子	金一封

一般寄付

氏名	住所	備考	金額
萩			
萩ボラセン万歳 防災ネットワーキング	広島県安芸郡府中町		4,000円
匿名			12,887円
山口県社会福祉協議会職員組合	山口市大手町		20,000円
山根 スミ子	江向2区の1		2,500円
玉田 敏夫	土原2区の2		10,000円
川 上			
岡村 正治	川上山田	交通遺児へ	14,392円

氏名	住所	備考	金額
田 万 川			
上村 敏	小川4区		金一封
伊藤 勝夫	小川12区		金一封
須 佐			
堀野美奈子	松原		金一封
旭			
長小野ささゆりサロン	長小野		3,000円
匿名			3,000円

物品寄付

物品名	氏名	住所
萩		
みかん10kg	徳長 文夫	玉江1区の1
旭		
書き損じはがき261枚	中澤 孝和	下横瀬

物品名	氏名	住所
紙おむつ	山本 勝茂	上横瀬
福 栄		
米 30kg	岡 敦子	永井

(香典返し・一般寄付合計 94件4,634,093円) 善意銀行は、地域福祉活動推進の貴重な財源となっています。どうかご協力ください。

萩市地域福祉推進セミナー

人生90年となった今、老化や認知症介護の問題は他人事ではありません。老いてどのような時間の使い方をして、どのような住まい方をして、どのような人生の閉じ方をするのか、元気な今だからこそ、自分の今後について考えてみましょう。

●日時 2月18日(火) 13:30～16:00

●場所 サンライフ萩

●内 容

1)ビデオ上映「無縁社会
—無縁死3万2千人の衝撃—」

2)講演 「上手に老いるための老い支度～自己点検ノートを使って老いの準備運動を始めよう！」
石黒秀喜さん

(財)長寿社会開発センター審議役、厚生労働省時代に介護保険制度創設に関わる。

●問合せ 萩市社会福祉協議会本所・各事務所

書き損じ葉書をおゆずりください

葉書によって毎月1回、一人暮らしの高齢者の見守り活動を行っています。

文面は中学生や母親クラブの皆さんが書かれ、郵便局員さんが手渡しで届け、高齢者に何か異変があれば社協や民生委員に連絡があります。

書き損じや未使用の葉書、年賀状をご提供ください。

●問合せ 萩市社会福祉協議会本所・各事務所

第2回 明るく、楽しい介護川柳

介護の中でふと感じる気持ち、思わず笑ってしまったり、幸せを感じたりする思いなどを込めた川柳の募集を行いました。

今回は、30名から80作品の応募があり、15句の入賞作品が決まりました。おめでとうございます。

●萩市長賞

良薬は背中をさするもみじの手 岡村南美枝

●萩市社会福祉協議会長賞

背に当てた手の温もりに目が笑う 田中美晴

●井上剣花坊顕彰会長賞

介護から学ぶ命の大切さ 沖野益也

●総 評

介護に対するそれぞれの立ち位置の違いがあります。する側、される側、そして夫、妻、親と子、祖父母と孫など、そこに温かい血の通い、心の通いがあります。その感動を伝える文芸としての川柳、正に人を詠む川柳の素晴らしさを再認識させてくれました。

萩川柳会 大場孔品

編集室

毎日の食事は多くの方の場合ごくあたり前で、健康な歯でおいしく食べることができていると思います。

しかし、毎日の歯磨きや清掃以外に、専門家でなければ分からないことがあります。かかりつけ歯科医院をもち、定期的にケアを受けることが、おいしい食事につながります。食事とは、人を良くする事です。(た)



地区の課題に地道に取り組む

住みやすい明木を育てる会 代表 岡村健哉

取組みのきっかけ

「明木地区内でゴミ出しに困っている方に、何か対応を考えてはもらえないだろうか」と、3年前に行政から相談がありました。当時はどう考えたらよいのか分からず、そのまま棚上げにしていました。

実態を知るために地区内を回って声を聴く

3年が経って地域を見回したとき、委員の中でどうしてもゴミ出しのことが気になっていました。困っている人がいるのではないだろうか、話し合いが続きました。しかし、机について考えても前になかなか進まず、実態を知るために自分たちの足で調べてみるようになりました。

明木地区内にある40箇所のゴミ集積所を見て歩き、その位置や集積所まで出すのに大変な住民はいないか、委員が手分けをして集落の行政推進員に尋ねてみました。

調査した結果をどうするか

●ゴミ集積所の箱が小さいので、ゴミがあふれ出ていることがある。

●一人暮らしの方が坂道を越えて出しているので、近くにもう一か所増設してもらえないか。
●大変な方は、出会った方が手伝っている。
今、こうした声をまとめ、課題を整理して行政にはたらきかけたり、各集落で取り組めることを見つめ直しています。

これからを考える

時には暗礁にのりあげたり、華やかな結果が出ないこの会の活動ですが、目に見えにくい地域の課題をどのようにして解決し、形にしたらよいのか。手探りのまま地道に6年間続けてきました。最近では、机を囲んだの会議から自分たちの足で地域をまわり、明木に住む人の声を聞き、その声を大きくしていくことが、必要なことなのだと感じています。

これからも、一つ一つの課題を丁寧に解決していきたいと思っています。

